

【基本施策内容】								
テーマ	感じよう（感動）－ 1				知ろう（情報・理解）			
基本施策	1 - （１）				芸術文化活動の情報発信体制の充実			
実行プラン	①芸術文化活動情報発信の基盤整備				②芸術文化に関する情報内容の充実			
取組の方向性	情報を取得する手段が多様化し、とりわけ30代から60代においては、ホームページやSNS等、インターネットを用いた情報取得を望む声が増えています。そこで、どの世代でも必要な情報にたどり着けるように、従来から活用されている紙媒体を中心とした情報発信方法に加え、インターネットを用いた発信方法を活用します。				これまで情報誌等の掲示場所の調査や大野城まどかぴあ「情報の森」の設置に取り組んできましたが、発信された情報が活動につながるものとなるには、情報発信方法を更に工夫する必要があることが分かりました。そこで、より多くの市民が、活動に有効な情報を得るため、魅力が伝わる情報の提供に加え、確実に情報を届ける仕組みを検討します。			
プラン取組記載の	＜重点的に実施する取組＞ ・芸術文化情報サイトの構築及び周知				＜重点的に実施する取組＞ ・情報をより多くの市民に伝えるためのプッシュ型情報発信方法の検討			
【資料2】【補足資料1】参照 「(1)芸術文化情報発信サイトに関する取組」に記載あり								
【令和6年度の取り組み】								
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
	サイト公開準備	周知活動			Instagramアカウントの作	Instagramの開設 情報発信		
	関係団体周知	連携事業の検討						
内容	◇情報発信サイト公開準備 ◇情報発信サイト周知 ・コンテンツや対象者をフォーカスした周知方法の実施 ◇情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能） ・まどかフェスティバルでの連動事業の実施				◇プッシュ型情報発信の実施 ・Instagramの活用。効果的な発信方法の検討実施。			
課題	・サイトの情報を更新した際は、サイトを見ている人はいる。（アクセス数より） ・アーティストの登録は定期的に行われているが、登録アーティストの活用方法が具体的に周知できておらず、アーティストが市民や関係団体とつながっていない。 ・ツナグトに掲載されている情報について、関係団体などが、どのように活用してよいかわかっていない、もしくは、芸術文化を自らの分野に活用することについて、イメージや実感が持てておらず、自分事として考えづらい。				・更新情報を発信するInstagramアカウントについても、より多くの市民に目を向けてもらうよう情報発信を行う必要がある。			
次年度以降の方針	・引き続き、サイトの認知度を高めるために、周知や関連事業などの取組を実施する。 ・市職員や関係団体などに対し、芸術文化の取組の重要性を知ってもらいイベントや事業情報などを、積極的に掲載してもらうよう協力を仰ぐ。 ・登録アーティストと市民及び関係団体がつながるように、活用のイメージが持てるような、芸術文化の考え方を伝える。				・引き続き、サイトの認知度を高めるために、周知や関連事業などの取組を実施する。			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】					
テーマ	感じよう（感動）－ 1		知ろう（情報・理解）		
基本施策	1 - （２）		芸術文化がもたらす魅力を伝える活動の推進		
実行プラン	①芸術文化の魅力を伝える機会の創出				
取組の方向性	芸術文化事業の様子を、SNSや動画投稿サイト等で配信し、魅力を伝える新たな試みを進めてきました。また、アンケート調査では、芸術文化が必要だと感じていると回答した市民は多く、その数は当初の計画策定時の結果よりも増えていました。しかし、世代によっては、芸術文化は人間性を育む上でなくてはならないものと感じている割合が少なく、魅力が十分に伝わっていないことも分かりました。 芸術文化の魅力を伝えるために、世代や属性、芸術文化への興味の有無等、対象に応じたアプローチ方法を検討します。				
プラン取組記載の	＜重点的に実施する取組＞ ・芸術文化の多様な魅力を伝える機会の創出【新規】 ・芸術文化の魅力を伝えるための、世代や属性、芸術文化への興味の有無等、対象に応じたアプローチ方法を検討します。 【資料2】【補足資料1】【補足資料2】 「（1）芸術文化情報発信サイトに関する取組」 「（2）芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研究」に記載あり				
【令和6年度の取り組み】					
実施状況	4－6月		7－9月	10－12月	
			Instagramの活用方法の検討及び実施		
	レポーター講座の実施・レポーター制度の検討			制度構築	
内容	◇プッシュ型情報発信の実施 ・Instagramの活用。効果的な発信方法の検討実施。 ◇情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能） ・まどかフェスティバルでの連動事業の実施 ◇九州大学長津研究室、大野城まどかぴあとの共同研究として実施 ・レポーター研修の実施 ・制度の構築 ・担い手が活躍する仕組みの検討				
課題	◇プッシュ型情報発信の実施 ・更新情報を発信するInstagramアカウントについても、より多くの市民に目を向けてもらうよう情報発信を行う必要がある。 ◇九州大学長津研究室、大野城まどかぴあとの共同研究として実施 ・市民レポートページのコンセプトは、芸術文化振興プランやツナグトと同様「芸術文化と市民との距離を近づける」ことで相違なく、レポーターは、「芸術文化に興味を持っている誰か」など漠然とした対象ではなく、具体的な誰かを対象と設定することが重要である。 ・ツナグト構築時にも重要な視点としていた「遠くの誰かではなく、となりのあなた」といった考え方を重視し、「あなた」の部分はレポーター自身が、取材対象を踏まえて具体的な何かに置きかえるなど、記事を書く際の共通する考え方等を設定することが必要である。 ・「市民レポーター」制度を実施する中で、定期的な「編集会議」を実施し、レポーター同士の交流を踏まえた取組を実施することが、レポーターの意欲を高めるためにも重要である。				
次年度以降の方針	・レポーター制度の構築と制度の開始 ・レポーター制度の進め方の検討、実施 ・レポーター講座の実施				

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】								
テーマ	感じよう（感動）－ 2		行こう（参加）					
基本施策	2 - （１）		芸術文化に興味を持ち、誰もが体験・鑑賞できる環境づくり					
実行プラン	①誰もが体験・鑑賞できる環境づくり				②誰もが体験・鑑賞できる機会の創出			
取組の方向性	アクセシビリティの調査研究の結果やアンケート調査の結果より、市民が望むときに、芸術文化活動を行うためには、芸術文化の持つ価値や活動に取り入れる方法等、芸術文化に関する考え方を知ってもらう必要があります。 そこで、市民が芸術文化に触れるための環境づくりや、芸術文化活動に関する考え方の普及・啓発を行います。				芸術文化活動ができていない理由として「コロナ禍で外出を控えていた」「時間の余裕がない」といった理由のほかに、「きっかけが少ない」ことが要因となっていることが分かりました。また、身近な場所での活動を求める声も多く、とりわけ、小中学生にとって身近な場所である学校は、子どもたちが芸術文化に触れることができる貴重な機会であることも分かりました。 そこで、世代に応じた身近な場所での芸術文化に触れる機会を創出するために、引き続きアウトリーチ事業等の環境整備を図ります。			
	＜重点的に実施する取組＞ ・芸術文化活動の入口を作るための環境整備及び考え方の普及【新規】				＜重点的に実施する取組＞ ・市や大野城まどかびあによる地域（各コミュニティセンターや公民館、学校等）での芸術文化イベントの実施及び支援 ＜併行して実施する取組＞ ・アウトリーチ事業 ・芸術発表会			
プラン取組記載の	【資料2】【補足資料4】参照 「(4) 芸術文化の考え方の普及や芸術文化活動の周知」に記載あり							
【令和6年度の取り組み】								
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
	芸術文化を活用した事業例の蓄積				取組の周知方法の検討、実施			
	プランの周知				打ち合わせ		事業開催	
内容	◇大野城市まちづくり出前講座へのメニュー化 ◇プランの周知（芸術文化に関する考え方の普及） ◇芸術文化を活用した事業例の蓄積				◇コミュニティセンター等での芸術文化体験イベントの実施、取組の周知 ・コミュニティセンターでの芸術体験ワークショップ実施 ・取組の幅広い周知方法の検討、実施			
課題	＜ハンドブックの周知及び活用＞ ・PR場所が固定されているため、新たな周知先や周知方法を検討する必要がある。 ・ハンドブックの概要の説明など、触れてもらうためのきっかけを作る。				＜身近な場所での芸術文化体験イベントの実施＞ ・より人が集まりやすい時期、日程を検討しながら、引き続き次年度以降も実施する。 ・事業の実施だけでなく、成果の周知など、その後の展開も検討する必要がある。地域でも、芸術文化活動に取り組んでもらえるように、関係者などに、届く形で周知する方法を検討する。			
次年度以降の方針	事業の実施にとどまらず、プランの中で取り組んでいることを具体的に、職員や市民、関係団体に届く形でアプローチする。				事業の実施にとどまらず、プランの中で取り組んでいることを具体的に、職員や市民、関係団体に届く形でアプローチする。			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】								
テーマ	創ろう（創造）－ 3			育てよう（育成・養成）				
基本施策	3 - （１）			芸術文化の創造・継承活動への多面的な支援				
実行プラン	①若い世代の芸術文化活動の担い手の育成				②芸術文化活動の企画・運営者（団体含む）への支援			
取組の方向性	市内で活動する文化団体の多くが、担い手不足を課題であると感じている現状があります。一方で、将来の担い手となりうる若い世代の多くは、「音楽」や「メディア芸術」への関心が高い反面、「伝統芸能」や「舞踊」への関心が低く、体験したい芸術文化のジャンルに偏りがあることも分かりました。 担い手を育成するためには、まずは様々な芸術分野を体験し、裾野を広げる必要があります。そこで、若い世代があらゆる芸術文化のジャンルに触れる機会を創出し、将来の担い手の育成を視野に入れた取組を行います。				長引いたコロナ禍は、文化団体にも影響を与え、活動の規模が縮小していると感じている団体が多く見受けられます。 そこで、文化団体の活動が充実したものとなるために、活動に有効な情報を一元化する等、活動の規模や幅を広げる取組を行います。			
プラン取組記載の	【資料2】【補足資料4】参照 「(4)芸術文化の考え方の普及や芸術文化活動の周知」に記載あり				【資料2】【補足資料2】 「(2)芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研究」に記載あり			
【令和6年度の取り組み】								
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
			文化連盟への協力、働きかけ			サイトの周知		
		学校・ランドセルクラブへのアプローチ				ファシリテーター講座の実施		方向性の検討と制度の構築
内容	◇多様なジャンルが体験できるイベントの検討 ・若い世代が芸術文化に出会う機会について、内容を検討する。（文化連盟への相談）				◇サイトの周知 ◇九州大学長津研究室、大野城まどかびあとの共同研究として実施 ・レポーター研修の実施 ・制度の構築 ・担い手が活躍する仕組みの検討			
課題	＜多様なジャンルの体験ができるイベントの検討＞ ・多様なジャンルを体験できる機会の創出については、文化連盟が、2つのジャンルを体験できるイベントを開催した。継続し、様々なジャンルが対象となるように、文化連盟に対し、情報提供及びサポートを行い、協力をいただく必要がある。				◇九州大学長津研究室、大野城まどかびあとの共同研究として実施 ・市民レポートページのコンセプトは、芸術文化振興プランやツナグトと同様「芸術文化と市民との距離を近づける」ことで相違なく、レポーターは、「芸術文化に興味を持っている誰か」など漠然とした対象ではなく、具体的な誰かを対象と設定することが重要である。 ・ツナグト構築時にも重要な視点としていた「遠くの誰かではなく、となりのあなた」といった考え方を重視し、「あなた」の部分はレポーター自身が、取材対象を踏まえて具体的な何かに置きかえるなど、記事を書く際の共通する考え方等を設定することが必要である。 ・「市民レポーター」制度を実施する中で、定期的な「編集会議」を実施し、レポーター同士の交流を踏まえた取組を実施することが、レポーターの意欲を高めるためにも重要である。			
次年度以降の方針	・多様なジャンルを体験する機会については、文化連盟やまどかびあなど関係団体にも協力を仰ぎながら、体験の機会を提供できる方法を考える。				・レポーター制度の構築と制度の開始 ・レポーター制度の進め方の検討、実施 ・レポーター講座の実施			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】								
テーマ	創ろう（創造）－ 3			育てよう（育成・養成）				
基本施策	3 - （２）			芸術文化を活かす担い手と受け手をつなぐ機能の充実				
実行プラン	①芸術文化活動を支える人材の育成				②芸術文化活動の担い手と受け手をつなぐ機能の充実			
取組の方向性	芸術文化活動を求める市民の声は多いものの、芸術文化を支える人材の育成が進んでいない現状があります。 そこで、継続的に芸術文化活動が行われるために、個人・団体と地域との連携を推進し、芸術文化と社会をつなぐための仕組みを作り出す。				市民、地域の活動団体ともに、芸術文化の必要性は感じていますが、「活動の仕方がわからない」「希望に合う活動がない」等、活動につながっていない状況はプラン策定時から変わっていません。 そこで、市内での芸術文化活動が活発化し、市民が気軽に芸術文化に触れることができるようになる。			
プラン取組記載の	【資料2】【補足資料2】 「(2)芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研究」に記載あり				【資料2】 「(5)芸術文化の担い手と受け手をつなぐ機能の充実」に記載あり			
【令和6年度の取り組み】								
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
	契約	研究の実施		研究をもとにした課題の整理	相談対応（FAQの蓄積）		相談機能のあり方の検討	
内容	◇九州大学長津研究室、大野城まどかびあとの共同研究として実施 ・ファシリテーター及び市民レポーター研修の実施 ・制度の構築 ・担い手が活躍する仕組みの検討				◇相談対応 ◇相談機能のあり方の検討 一部実施（ツナグトを通じた芸術文化情報の周知）			
課題	・ファシリテートスキルの育成には、一度の講座受講だけでなく、継続的な支援や経験が必要。 ・講座終了後も、受講生同士で連絡を取り合ったり、お互いの活動の報告をしているという話を受講生から聞いた。アーティスト同士のつながりの構築が、アーティストの活動のきっかけやモチベーションにもなりうる。 ・受講生にとっては、現場での実践は必要な要素であるが、ファシリテーター養成の側面をより強く設けるのであれば、実践の場をどこに設けるのかについて、再検討する必要がある。				・相談機能として、持たせる役割を明確にする必要がある。			
次年度以降の方針	・課題を踏まえた継続的な講座の制度の構築、実施 ・講座を受講する上でのメリットや、その後の大野城市での活動につながるための、取組の検討				・他の取組の状況を鑑みながら、継続的な相談機能を検討する。 ・芸術文化情報サイトツナグトを、活動につなげるツールとして相談機能の一部を補完できるように使用方法や周知を行う。			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】				
テーマ	創ろう（創造）－ 4		つながろう（連携・融合）	
基本施策	4 - （１）		団体や芸術分野を超えた交流の促進	
実行プラン	①芸術分野がつながる活動の推進			
取組の方向性	「活動の内容が低下している」と感じている文化団体の割合が、策定時の調査に比べ増えていることが分かりました。また、他団体との交流についても、希望している団体はありますが、実際に交流を行っている団体は半数程度です。 そこで、文化団体の活動内容の充実を図るためにも、団体や分野を超えた交流、連携を図る機会を創出します。			
プラン取組記載の	<重点的に実施する取組> ・芸術文化情報サイ 【資料2】【補足資料1】 「（１）芸術文化情報発信サイトに関する取組」に記載あ			
【令和6年度の取り組み】				
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
		サイトを紹介した交流の場の検討		
内容	◇情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能） ・サイトを介した交流の場の検討 具体的な交流の場は検討できていない			
課題	・サイト登録者の交流会の実施方法については、未検討。			
次年度以降の方針	・サイト登録者の交流会の実施方法の検討及び実施。			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】								
テーマ	創ろう（創造）－ 4				つながろう（連携・融合）			
基本施策	4－（２）				芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を広げる環境づくり			
実行プラン	①芸術文化活動を通じて全ての人々が地域と関わる機会の充実				②芸術文化の他分野への活用			
取組の方向性	子どもや社会的少数者が中心となった事業へ参加した人の割合は策定時の調査に比べ、増えていることが分かりました。 引き続き、あらゆる人々にとって、芸術文化を通じた社会参加の機会が生み出されるような取組を進めます。				芸術文化を通じた部門間連携会議の設置をきっかけに、他分野で芸術文化を取り入れた活動が実施されました。 今後は、プランの進捗に沿った部門間連携会議のあり方を検討するとともに、福祉や商工業等、他分野で芸術文化を活用してもらうための取組を進めます。			
プラン取組記載の	＜重点的に実施する取組＞ ・芸術文化活動を通じた社会参加の機会を生み出すための取組の実施【新規】 ＜並行して実施する取組＞ ・シニア・若年・外国人・障害者・子育て世代・国際交流・小中学校・大学・社会福祉施設・企業・市民団体等との連携				＜重点的に実施する取組＞ ・部門間連携会議のプラン進捗に沿ったより良いあり方の整理及び実施・補完的な取組			
	【資料2】 「(4) 芸術文化の考え方の普及や芸術文化活動の周知」に記載あり				【資料2】 「(3) 芸術文化の他分野への活用」に記載あり			
【令和6年度】								
実施状況	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
			情報収集		連携会議の在り方の検討・実施			
		心のふるさと館事業・国際交流フェスティバル				分野別アプローチ方法の検討		
内容	◇取組の可視化、周知 ・プランの目標である子ども、高齢者、社会的少数者等の取組を把握し、参加を促せるような周知方法を実施する。				◇連携会議の実施（年6回程度を予定） ◇実施内容（案） （１）芸術文化情報サイト「ツナグト」について （２）まどかぴあの課題の検討 （３）芸術文化を用いた事業の調査、公表			
課題	＜芸術文化に関する取組の可視化、周知＞ ・事業レポートの作成、ツナグトへの掲載				・コミュニティ文化課主催事業の発信が多く、社会的少数者等を対象とした事業の発信は1件（チャレンジアート展）にとどまった。			
次年度以降の方針					・より多くのジャンルの取組を可視化できるように、コミュニティ文化課だけでなく、事業主催者への依頼やレポーター制度等を活用し、発信できるよう働きかける。			

大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

【基本施策内容】												
テーマ	創ろう（創造）- 5				活かそう（資源活用）							
基本施策	5 - （１）				芸術文化に関わる多様な資源を活かす仕組みづくり							
実行プラン	①芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークの構築				②地域の特性を活かしたイベントの実施支援				③芸術文化活動場所の把握			
取組の方向性	これまでに、市内で芸術文化活動を行う個人・団体の情報収集を行ってきましたが、更なる情報の収集と活用が必要です。引き続き、市内の芸術文化情報を把握するとともに、得られた情報を様々な活動で活かすための仕組みづくりを行います。				生活文化や市の歴史・文化に関する催しを求める声もあり、改めて、地域に根付いた歴史・文化の継承が重要であることが分かりました。市の歴史や暮らしの文化に触れる機会を大切に、地域の特性を活かした文化活動の発展を目指します。				活動文化団体において、「活動場所の情報が知りたい」「活動場所の確保に課題がある」等、活動場所に関する課題は以前と大きく変わっていません。活動場所の選択肢を広げるために、引き続き、新たな施設・空きスペースを調査するとともに、わかりやすい情報の提供を目指します。			
プラン取組記載の	＜重点的に実施する取組＞ 【資料2】【補足資料1】 「(1)芸術文化情報発信サイトに関する取組」に記載あり				＜重点的に実施する取組＞ 【資料2】 「(6)地域の特性を活かしたイベントの実施支援」に記載				＜重点的に実施する取組＞ 【資料2】【補足資料1】 「(1)芸術文化情報発信サイトに関する取組」に記載あり			
【令和6】												
実施状況	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月
	個人団体の情報収集				ふるさと館を活用した事業の実施				活動場所の情報収集とサイトへの掲載			
内容	◇個人、団体の情報収集				◇ふるさと館での事業実施 ⇒実施した取組の共有と周知を行う。				◇活動場所の情報収集とサイトへの掲載			
課題	・アーティストの登録は定期的に行われているが、登録アーティストの活用方法が具体的に周知できておらず、アーティストが市民や関係団体とつながっていない。 ・ツナグトに掲載されている情報について、関係団体などが、どのように活用してよいかわかっていない、もしくは、芸術文化を自らの分野に活用することについて、イメージや実感が持てておらず、自分事として考えづらい				—				・公共施設以外の活動場所の調査や掲載ができていない。			
次年度以降の方針	・市職員や関係団体などに対し、芸術文化の取組の重要性を知ってもらいイベントや事業情報などを、積極的に掲載してもらうよう協力を仰ぐ。 ・登録アーティストと市民及び関係団体がつながるように、活用のイメージが持てるような、芸術文化の考え方を伝える。				・継続的な実施及び事業間の連携の検討。				・新たな活動場所の調査			